



令和7年度 日向市立富高小学校 自己評価書及び学校関係者評価書

学校経営ビジョン	「心のふるさと 富高小学校」 『～“ゆめ”を支え、“やさしさ”を育む～』
----------	---

【評価基準 4段階評価 4…期待以上 3…期待通り 2…やや期待を下回る 1…改善を要する】 ※自己評価の総合（ ）はR6の数値

重点指導項目	方策手立て	評価内容 (児…児童 保…保護者 職…職員)	自己評価			◆ 学校の自己評価コメント・改善点等 □ 学校運営協議会のコメント
			昨年度	R7	総合	
確かな学力の向上をめざして	授業力の向上	1 OJTの推進	児：学校は、楽しい。	3.5	3.6	<p>◆ 児童が安心して学校に登校できるよう、職員も日々様々な指導や声かけを行っている中で、保護者もおおむね楽しく学校に通うことができていると感じていることはありがたい。</p> <p>◆ ICT活用については、昨年度と比べると授業場面で活用していくことが日常的になっている。今後も指導力向上や授業改善に努め、効果的にICTを活用していきたい。</p> <p>◆ 本年度実施した全国学力・学習状況調査(6年)では、国語科は全国・県を上回り、算数科は全国・県とは同等であった。職員も前年度から指導を重ねて、児童も努力を重ねてきた結果が表れていた。結果分析を行い、年度末までに当該学年以外の内容も再指導を行い、理解を深めさせ、中学校へつなげていきたい。</p> <p>◆ 家庭で読書をする姿をあまり目にせず、メディアに関わる時間が多く感じる保護者もみえ、読書に関する評価が伸びていない。一方、学校で読書意欲の向上につながる手立ての工夫を行い、読書冊数大きく伸びて、年間1.5万冊を超えている。しかし、学年差が見られるという現状もある。</p> <p>□ 児童は、大人が思う以上に自己肯定感が高く、楽しく元気に学校に通うことができている様子がうかがえる。</p> <p>□ 読書に関して、児童と保護者の認識のずれがあることは、家庭と学校の過ごし方の選択の差なのだろうか。図書室を見る限り、学校で読書推進で努力していると思う。</p> <p>□ 登下校時の重大事故が起って以来の不幸である。朝から通学路に立ち見守ってくださる方や学校の交通指導が大きく寄与していることもあるが、日向警察署管内での交通事故死者が1名とかなり安全地域ということもあるかと思う。</p>
		2 相互授業参観の実施	保：子どもは楽しく学校に通っている	3.5	3.3	
		3 校内研修・個人研修の充実	職：児童が楽しいと感じるかわかりができた。	3.1	3.1	
	「わかる・できる」授業の実践	1 ひなたの学びの推進 2 ICTの活用	児：授業は、分かりやすい。	3.4	3.4	
			保：先生は、分かりやすい授業をしている。	3.6	3.3	
			職：「わかる・できる！」授業の実践ができた。	2.9	2.9	
	読書活動の推進	1 読書の時間の確保 2 感性や想像力の醸成 3 学校図書館、巡回文庫の利用	児：読書をよくしている。	2.8	2.8	
			保：子どもは読書をよくしている。	2.4	2.4	
			職：読書の時間を設定し、読書活動の充実を図ることができた。	3.1	3.0	
安心して過(こ)せる学校	特別支援教育の充実	児：学級は誰にとっても過ごしやすい場所になっている。	3.3	3.3	<p>◆ 登校渋りの児童や配慮を要する児童については、適宜、情報共有を行い、早期発見・早期解決に努められるよう、生徒指導主事を中心として取り組んでいる。多くの児童は、元気に登校し、充実した日々を過ごしていることが分かる。特別支援教育の面からのスクールワイドPBSの取組を継続させ、児童に寄り添う指導も行ってきた。今後も組織的な対応を行い、児童が安心して学校生活を送ることができるように支援していく必要がある。</p> <p>◆ あいさつに加え、ろう下歩行や言葉遣いや身だしなみを整える指導を継続して取り組んでいる。しかしながら、地域の方や安全監視員等に対して元気なあいさつが見られない場面もある。</p> <p>◆ 目上の人に対する言葉遣いや時と場に応じた言動ができない場面も見られる。また職員が丁寧で、肯定的な表現を心がけ、児童の丁寧な言葉遣いにつなげられるように継続して指導していく必要がある。</p> <p>□ 多様性が求められる時代において、全ての児童にとって居心地のよい場所と感じられるよう、これからの学校の取組に期待したい。</p> <p>□ 非行の低年齢化が懸念される中、いじめの防止には、家庭の対応も重要であると思う。</p> <p>□ 言葉遣いや、大人が子どもに対しての影響が大きいと思う。児童も独立した人格であるという認識が大切だと思う。</p> <p>□ 言葉遣いや身だしなみを整えるなどの指導が社会性を身に付けることにもつながっていくと考える。先生方がそのことを意識して指導していることがうかがえる。</p> <p>□ メディアで間違っって使われる言葉や気分を害するような言葉を平気で使う子どもたちを見て、保護者の方はどう思うのだろうか。</p>	
		2 エバーサルトサイン導入授業づくり	保：先生は子ども達のことをよく分かってくれている。	3.1		3.1
		3 児童理解の推進	職：児童理解に立った学習指導・生徒指導ができた。	3.1		3.0
	いじめ・不登校への積極的対応	1 教育相談の充実 2 チームでの対応 3 関係機関との連携	児：友達が嫌がることをしたり、いじめたり、いじめられたりするところを見たことがある。学校を休まず、元気よく登校している。	3.3		3.3
			保：子どもの友人関係は良好である。子どもは、いつも元気よく登校している。	3.1		3.2
			職：いじめ・不登校の未然防止、早期発見・解決に努めることができた。	3.2		3.1
	正しい廊下歩行、言葉遣いの徹底	1 主体的な取組 2 自信・思いやり	児：正しい廊下歩行ができている。気持ちのよい言葉遣いができている。			3.4
			保：子どもは、気持ちのよい言葉遣いができている。			2.8
			職：正しい廊下歩行のための取組ができた。時と場に応じた言葉遣いのための取組ができた。			3.1
たくましい心と体の育成	体力テストの課題の克服	児：よく運動をしている。	3.4	3.4	<p>◆ 体力テストを実施した結果、A判定児童は男子12%、女子9%、DE判定児童は男子26%、女子は43%であった。児童の体力向上を目指して学校全体で取り組んでいく必要がある。</p> <p>◆ インフルエンザが2学期終わりから流行し、2月には、4年・6年が学年閉鎖、年明けには1年1学級、2年1学級が学級閉鎖となった。以前とは流行時期が異なるため、感染防止の呼びかけを適宜行っていく必要がある。</p> <p>◆ メディア視聴等により睡眠時間が削られ、生活リズムの乱れから児童の学習意欲や問題行動等にも表れることもあり、家庭と連携しながら生活リズムの確立を目指していく必要がある。健康面や保健面について、今後も学校からの発信を積極的に行っていく。</p> <p>◆ 様々な検診を適切に実施することができた。歯の治療率は77.4%が治療完了しており、今後も啓発を繰り返し、100%に近づけていきたい。</p> <p>□ 体力向上や健康な体づくりに不可欠な生活リズムの定着には、家庭の力が大きい。これまで通り、学校側からの情報発信を継続していただきたい。</p> <p>□ 早寝・早起きの評価のずれは、質問に対する回答の認識のずれがあるのかもしれない。その為にも基本的な生活習慣の定着を促進する取組を継続して行うとともに、認識の目安をはっきりさせることが必要だと思う。</p> <p>□ むし歯治療は、現在治療中の児童も含めて評価することが望ましいと思う。</p> <p>□ 体育館の老朽化の現状と補修の要望が必要であると感じる。</p>	
		保：子どもは、進んで運動をしている。	3.0	3.0		
		職：体力テストの課題克服に向けた取組ができた。	2.7	2.7		
	望ましい食生活と生活リズムの確立	1 食育の推進 2 安心・安全な給食指導 3 メディアコントロール	児：早寝、早おきができています。	3.6		3.6
			保：子どもは、早寝、早起きの習慣が身に付いている。	3.0		2.9
			職：基本的な生活習慣の定着を図るための取組ができた。	3.2		3.0
	むし歯治療率100%	1 口と歯の健康・歯磨き指導の推進 2 保護者への周知・啓発	児：食事のあとは歯みがきをして、歯を大切にしている。	3.1		3.2
			保：治療カードが届いたら、すぐに受診させている。	3.2		3.2
			職：治療の啓発、歯磨き指導の充実を図ることができた。	3.2		2.9
地域ととも(とも)に育(そ)ぐ	地域人材・素材の積極的な活用	保：学校は、地域のひと・もの・ことを活用した取組をしている。	3.0	3.0	<p>◆ 各学年で地域の人材やよのなか教室の講師を招聘することができた。生活科や社会科の見学等でも地域人材を積極的に取り入れ、キャリア教育の取組も実施できた。</p> <p>◆ 今年度は、学効行事計画どおり実施できた。しかし、感染症の流行により、行事の期日変更をしたり、儀式的行事をオンラインで実施したりした。</p> <p>◆ 緊急の要件等については、マチコミメールを活用し早急に伝達することができた。また、学校だよりやホームページなども活用し、学校の情報を保護者に積極的に発信することができた。</p> <p>◆ 児童が自信をもって自分の夢や目標を語るができるように、キャリア教育支援センターの一層の活用を図りながら、キャリア教育の充実をめざしたい。</p> <p>□ 感染症の流行による行事変更調整が難しいと思うが、工夫しながら計画どおり実施できたことはよかったと思う。</p> <p>□ みやフェス2025inの参加について「てんでこてん」が参加したが、練習の成果を発表する場が大切であると感じた。先生方の協力に感謝したい。</p> <p>□ 富高小学校区内での地域のイベントが軒を抜いて多いと思う。適切な指導のもと積極的に参加を促してほしいと思う。</p> <p>□ 評価も低くなっているが、学校だよりやホームページ等で子ども達の活動の様子や学校の取組などを分かりやすく伝えられていると思う。</p>	
		職：地域の人材・素材を活用した授業や取組を積極的に行った。	3.1	3.0		
	コミュニティ・スクールの推進	1 情報発信と熟議(しゃべり場)	保：学校は、教育活動の様子や小中一貫教育の取組を家庭や地域に発信している。	2.9		2.9
		2 取組のブラッシュアップ	職：通話やホームページ等を活用して、学校の情報を保護者や地域に発信することができた。	3.4		3.0
	キャリア教育の推進	1 キャリア教育支援センターとの連携 2 よのなか先生の活用	保：子どもは自分のよさやこれからの目標について考えている。	2.8		2.8
			職：地域の方や「よのなか先生」等の活用を図り、キャリア教育の充実を図ることができた。	3.1		2.7

